

社会科（歴史的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解できるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などについて、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>（全体的な特徴、その他）</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 歴史</h1>	2 東 書
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」で構成されている。また、小学校の学習事項が年表に位置付けられている。 ○学習に必要な技能を身に付ける「スキル・アップ」が設けられている。また、身に付けた技能を活用する「読み取る」「まとめる」などのコーナーが設けられている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○見開きのまとめ「チェック&トライ」では、学習内容の説明や要約、原因や結果をまとめたりする等、事象を解釈して表現できるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「クラゲチャート」、「Xチャート」、「ピラミッドストラクチャ」等の思考を整理するツールを活用した学習活動が設けられている。 ○「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりすることで、歴史的な見方・考え方を働かせてより深く思考・判断できるように工夫されている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○1単位時間の学習で追究する学習課題を示し、生徒が見通しをもって主体的に学習を進められるように工夫されている。 ○生徒キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントが示されている。また、思考を整理するための思考ツールが提示されている。 </p> <p> ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各時代の導入に小学校の振り返りと小集団の協働的な活動が設けられ、単元全体を貫く「探究課題」を立てて、学習に見通しをもたせるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「探究のステップ」が設けられ、見開きごとの活動が段階的に「探究課題」の解決へとつなげられるように構成されている。 ○「みんなでチャレンジ」では、対話的な学習の場面が設けられ、持続可能な社会の実現に向けて構想し、積極的に社会参画したり、他者と協働したりしながら、より良い社会を築こうとする意識や態度を養えるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や探究の中心となる資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵のほか、資料の大きさが記されている。 ○Dマークや二次元コードを付し、インターネットを使った学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○見開きで学習している時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、A B版が採用されている。 ○教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進めることができるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</h2>	<div style="text-align: center;">17</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、本文、資料、学習活動で構成されている。また、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」が設けられている。 ○絵や写真、新聞、地図や系図等の学習の中で活用する資料について、資料活用の方法や手順を示している「歴史の技」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめ「表現」では、学習内容を自分の言葉で説明したり、対話したりすることで事象を解釈して、表現できるように工夫されている。 ○「歴史の窓」やテーマ学習のページでは、個人やグループで歴史的事象について多面的・多角的な思考や理解を深められるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめと表現」では、時代の特色を言葉で説明する活動が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入の「学習を始めよう」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読みながら、章の学習が見通しをもって進められるように工夫されている。 ○生徒が自ら資料を読み解くために「読み解こう」のコーナーを設け、読み解きのガイドとして活用できるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入「学習を始めよう」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いが示され、見通しをもって学習が進められるように工夫されている。 ○本文とは視点を変えてとらえ直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何ができるかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習のきっかけや探究の中心となる、導入資料・中心資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、疑問点や解説が掲載されている。 ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」が設けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○見開きに「時代スケール」として学習する時代の範囲を色で表し、小学校で学習した人物・中学校で学習する人物が識別できるように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A B版が採用されている。 ○教科書全体を通して、人権や平和、環境、災害・防災等、現代社会に見られるさまざまな課題や、それにつながる歴史を取り上げ、自己と社会・歴史とのつながりについて、考えを深められるように配慮されている。 	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">社会科 中学生の歴史</h2> <h3 style="margin: 0;">日本の歩みと世界の動き</h3>	4 6 帝 国
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入、学習課題、本文で構成されている。また、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」で構成されている。 ○歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できる「技能をみがく」コーナーが設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「説明しよう」では、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して自分の言葉でまとめ、表現できるように工夫されている。 ○章のはじめに設けられた「問い」は、時代の特色を論理的に説明する際の手がかりとなるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを整理し、話し合い、説明することで学びを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「タイムトラベル」では、単元のはじめで時代の特色を見通し、本文と関連付けたり、眺め直したりすることで、時代の振り返りができるように工夫している。 ○中学生のキャラクターが発問や気付き、学習の手がかりや示唆等を提示することで、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「章の問い」、「節の問い」、「見開きの問い」（学習課題）と単元のまとまりで課題解決的な学習、深い学びにつなげられるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、見開きから節、節から章へと段階的に振り返りを行い、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。 ○「多面的・多角的に考えてみよう」と「多面的・多角的に構想する」では、社会に見られた課題に対する当時のさまざまな立場や選択を通して考察し、さまざまな立場と多様性を踏まえた社会の成長を構想することを促すように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、学習の手がかりが示されている。 ○二次元コードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧できたりするように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が2つ示されている。 ○見開きの右端に「年表インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、A B版が採用されている。 ○教科書全体を通して、さまざまな立場や選択を踏まえて考察する活動が設けられたり、歴史上の人々が連携・協働して課題の解決に取り組む姿が紹介されたりして、多面的・多角的に歴史をとらえられるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学歴史 日本と世界</h1>	81 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">山 川</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入の発問、本文、「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるようにしている。 ○「歴史との対話」では、歴史を学ぶための基礎知識と、歴史の調べ方を示し、歴史学習に必要な技術が習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめ「ステップアップ」では、授業で学んだことを整理し、その後の歴史や現代の自分たちにどう影響したか、考えられるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」では、美術作品や史料・地図、憲法や選挙等が取り上げられ、話し合いや考察を通して歴史の思考力を養えるように工夫されている。 ○章末「まとめ」では、時代全体を俯瞰して考えるための問いかけがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「身近な地域を調べよう」では調査の順序、注意事項等を示し、生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○生徒にとって意味の分かりにくい用語に用語解説を付している。同じページに示すことで、理解し易いように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもてるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめるような資料を用いたり、見開きの冒頭に学習課題が明示されたりしている。 ○「身近な地域を調べよう」では、実際の中学生を想定し、調査の順序や注意事項を示して、生徒が主体的に課題を追究することができるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、史料の細部をクローズアップしたり発掘調査の結果を踏まえたりすることで、さまざま角度から課題を追究できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○二次元コードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見る等、課題を追究した学習ができるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○地図・グラフなどは、UDに配慮されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。 ○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。 ○本文は、常体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体が歴史を学ぶ力を養うために「流れをつかむ」「歴史を考える」「世界史を知る」という3つのポイントで構成されている。また、高校につながる教科書として構成・叙述の流れや資料等が工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学社会 歴史的分野</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">目 文</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」で構成され、「確認」では学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されている。 ○「スキルUP」では、歴史学習を進めるにあたって必要な技能を解説している。社会的事象等について調べ、まとめる技能が身に付けられるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめ「確認」では、学習内容を理解しているか確認するために、自分の言葉で説明する問いが設けられている。 ○章末「とらえよう！○○の特色」では、習得した知識を関連させ、時代の特色を考え説明したり、話し合いや意見交換したりする学習活動が設けられている。 ○見開きの「見方・考え方」では、学習課題の解決に向けた手がかりが示され、「深めよう」では、問いを通して学習課題の理解が深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歴史との対話を未来に活かす」では、テーマ別さくいんが設けられ、災害・政治参加・世界平和について考える学習課題が示されている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページが設けられている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、学習の「めあて」を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。 ○歴史の学習の最後「『歴史との対話』を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史をふまえて未来を考える学習活動が設けられている。 ○「『歴史との対話』を未来に活かす」や「先人に学ぶ」では、現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災、減災への先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて生徒が歴史を踏まえて考えることができるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習の導入となる写真資料や関心を高めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に表現したりする活動が示されている。 ○教科書内容の理解を助ける動画やワークシートなどの教科書QRコンテンツをウェブサイトで公開し、教科書には「デジタルマーク」が表示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。 ○見開きの右端に学習している「時代」を色で示した年表が掲載されている。見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民との連携が示されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体を「私たちと歴史」「古代までの日本と世界」「近世の日本と世界」「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の6つに編成し、詳細な学習に陥ることがないように学習内容の焦点化を図るための配慮がされている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">[最新] 新しい日本の歴史</h1>	227 育鵬社
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成され、つかむ、調べる、まとめる、表現するという配列になっている。 ○「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史の情報を収集し、レポートにまとめ、発表するという方法が示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの学習のまとめでは、学習内容をレポートや論述形式でまとめたり、解釈したりする問いが設けられている。 ○『私の歴史博物館』をデザインしてみよう』では、展示方法を考えさせることで、資料から情報を効果的に調べ、まとめられるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○序章「歴史探検！」では、歴史を学ぶ意欲が高まるように、小学校での学習を振り返ったり、特定の人物について調べ、まとめ、発表したりする活動が設けられている。 ○「歴史のターニングポイント」では、生徒が、「もし、その時、私が当事者だったら」という意識で、歴史と向き合えるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもちながら学習を進めることができるように、見開きごとに資料を使い問題解決できるような学習課題が明示されている。 ○各章冒頭の「○○の世界へようこそ！」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、日本の歴史を大観し、表現する学習活動が設けられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。導入資料には発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○「日本の美の形」「歴史絵巻」等のページは、生徒が視覚的に興味をもって取り組めるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○図版は、色覚特性を踏まえた判別しやすい色が使われている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習のまとめの二つの課題が示されている。 ○各章の章扉に「歴史絵巻」「歴史モノサシ」が掲載され、歴史の大きな流れと現在の学習範囲が確認できるように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A B判が採用されている。 ○学習内容の理解をより深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」、歴史上の人物の活躍を紹介する「人物クローズアップ」等のコラムが設けられ、学習に具体性や発展性をもたせるように配慮されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">ともに学ぶ人間の歴史</h1>	229 学び舎
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の扉のページで部の学習課題があり、章のあと・部のおわりに章をふりかえる・部の学習のまとめが設けられている。 ○「地域の博物館で調べる」でインターネットや博物館を利用した調べ学習・体験者からの聞き取り・討論の方法等が紹介されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特設ページ「歴史を体験する」では、活動を通して考えたことを話し合ったり、発表したりする問いが設けられている。 ○「章の振り返り」では、歴史事象をさまざまに関連付けさせたり、意見交換をさせたりして、グループ活動等を通して深められるように課題が設定されている。 ○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、各時代の特色を多面的・多角的に考察し、学びを深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特色のある図版と記述等から疑問や問いが生まれるように工夫されている。また、本文の太字をなくしている。 ○章の扉のページに北極を中心とした地図を置き、テーマに沿って世界各地のようすを想像・予想できるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、扉ページで各時代の「学習課題」が示されており、学習を進めながら時代の特色を考えていく構成になっている。 ○現代史を充実させ、歴史を今日の課題と結びつけ、より良い社会の実現に向けて考えられるように公民学習につなげられるように工夫されている。 ○現代史の学習では、21世紀までテーマを設定し、歴史的な事象を今日の社会と結びつけ、より良い日本の社会と世界の実現を視野に、さまざまな社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵が掲載されている。 ○側注・グラフ・資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○地図・グラフは、色覚特性に配慮されている。 ○見開きの見出しは、太字で表記されている。見開きに生徒の関心を引き出すタイトルと見通しをもつための学習課題が示されている。 ○巻末の年表では、日本の社会・政治・経済の動きと日本の文化・宗教が世界の出来事と関連付けて掲載されている。 ○本文は、敬体で記され、学年に応じた文章表現や漢字が使用されている。資料には、見開きで通し番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A判が採用されている。 ○生徒の主体的な学びの実現を目指した図版や記述の工夫がされている。女性や子ども等、さまざまな分野・階級の人びとの生活を学ぶことで、誰もが個人として尊重し合える社会について考えを深められるように配慮されている。 	

社会科（歴史的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数 ※教科書に記されているページ数の内訳を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
A	(1) 私たちと歴史	10	9	7	3	11	13	6
	(2) 身近な地域の歴史	16	19	31	19	11	10	4
B	(1) 古代までの日本	42	40	42	44	48	50	44
	(2) 中世の日本	34	34	34	38	40	34	32
	(3) 近世の日本	48	48	48	50	50	52	48
C	(1) 近代の日本と世界	98	104	96	97	99	98	110
	(2) 現代の日本と世界	32	37	30	28	44	38	34
その他（資料ページ・索引）		28	27	22	15	31	23	30
総ページ数		308	318	310	296	336	320	308

※総ページ数は目録に記載されたページ数

○基礎・基本の定着

(1)取り上げている日本の歴史上の人物数（索引から）

※日本において我が国の歴史とかかわった外国人を含む。

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
古代まで	32	35	29	32	29	44	25
中世	65	59	52	59	48	55	44
近世	69	79	51	83	47	104	51
近代	102	119	113	96	93	131	72
現代	29	31	33	17	13	45	23
合計	297	323	278	287	230	379	215

(2)我が国の歴史的背景として取り上げている世界の歴史のページ数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
古代まで	10	12	10	14	17	6	18
中世	2	2	0	4	2	2	6
近世	6	6	6	10	6	4	8
近代	24	24	20	26	22	14	34
現代	4	6	2	6	8	4	10
合計	46	50	38	60	55	30	76

（世界の歴史を中心に構成されたページを数えたもの）

○言語活動の充実

(1)各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現する学習

東書	○古代：古代日本のキーパーソンはだれだろう／○中世：古代との比較から中世の特色を探ろう／○近世：近世で最も活躍した身分はどれだろう／○近代：日本と世界との結び付きを考えよう、戦争へのターニングポイントは何だろう／○現代：現在の日本を形作ったものは何だろう
教出	○各章：学習のまとめと表現(○○の時代の移り変わりを確かめよう。○○の舞台を地図で確かめよう。○○について説明しよう。○○の時代の特色を考えよう。)
帝国	○各章：章の学習を振り返ろう(学んだ事を確かめよう。歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう)
山川	○各章：まとめ
日文	○古代：「文字の変化」／○中世：「法」／○近世：「幕府の収入」／○近代「明治政府の政策」「戦争」／○現代：「復興と成長の源」に着目して、時代の特色にせまろう
育鵬社	○各章：学習のまとめ(○○○の時代をふり返って考えてみよう)
学び舎	○各章：第○章をふりかえる／学習のまとめ／歴史を体験する

○社会に参画する資質・能力の育成

(1)身近な地域の歴史を調べる活動（具体的な事項）

	内容
東書	「地域の歴史を調べよう」（大陸への玄関口・福岡／戦国時代の城下町・一乗谷／会津藩の政治と産業／多文化共生都市・神戸／東京大空襲の記憶を伝える／広島復興と平和への思い）
教出	「身近な地域の歴史を調べよう」（地域の遺跡や古墳を訪ねて／地域の寺社を訪ねて／地域の街道や港を訪ねて／明治期の面影を訪ねて／大正・昭和初期の面影を訪ねて／移り変わる戦後の街を訪ねて）
帝国	「歴史を探ろう」（古墳から分かる当時の様子／東アジアに開かれた窓口 博多／琉球とアイヌの人々の暮らし／昆布ロードと北前船／世界有数の百万都市 江戸／世界に開かれた港 横浜／移住と開拓が進む北海道／「絹の道」と日本の製糸業／発展する産業都市 大阪・神戸／長野県から見る満州移民／戦場となった沖縄）
山川	「地域からのアプローチ」（奈良／福岡／平泉／金沢／札幌／広島／沖縄）
日文	「でかけよう！地域調べ」（史跡見学に行こう 平城宮跡を歩く－奈良県奈良市－／歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる－広島県福山市－／城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる－兵庫県姫路市－／近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる－群馬県富岡市－／戦争遺跡を訪ねよう 大阪の空襲を調べる－大阪府大阪市－／地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる－福岡県北九州市－）
育鵬社	「地域の歴史を調べてみよう」（大阪の歴史・ワクワク調査隊／横浜の歴史・ワクワク調査隊）
学び舎	「地域の博物館で調べる」／「歴史を体験する」（地域の歴史を歩く／一人ひとりの歴史・家族の歴史）

○埼玉県の歴史的事象 ※資料の出典が、埼玉県内の博物館等に所蔵されているものを含む。

	内容
東書	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／長善館（川越藩校）／渋沢栄一／1号機関車／秩父事件／増税に泣く国民／旧国名地図（武蔵）／各地の主な史跡（埼玉古墳群・吉見百穴）
教出	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／増税に泣く国民／渋沢栄一／原爆の凶／各地の主な遺跡・史跡・できごと（高麗神社・吉見百穴・鉢形城跡）
帝国	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／職人尽絵／主な大名の配置（阿部）／江戸時代の交通・関所（栗橋）／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／重税に苦しむ国民／渋沢栄一／東京停車場之図
山川	稲荷山古墳出土の鉄剣／古代の行政区画（武蔵）／太平記絵巻／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一
日文	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／律令国家における行政区分（武蔵）／江戸時代の主な都市・城下町（岩槻）／黒船を見学する民衆／渋沢栄一／秩父事件／100年ほど前の田園調布（渋沢栄一らが開発）
育鵬社	人形埴輪／稲荷山古墳出土の鉄剣／前方後円墳の分布（稲荷山古墳）／男衾三郎絵詞／職人尽絵／江戸時代の城下町（岩槻）／宗門改帳／大工職人たち／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／秩父事件／ノーベル賞・梶田隆章／各地の主な遺跡（吉見百穴・埼玉古墳群）
学び舎	農夫のはにわ／稲荷山古墳出土の鉄剣／平城京までかかる日数（武蔵）／千早城に立てこもる楠木正成軍／古代アンデス文化の土器／綿花の主な生産地（武蔵）／黒船を見物する人々／武州世直し一揆／廃藩置県（入間・埼玉）／最初の切符／歴史地図（秩父事件・稲荷山古墳）